

玉野高（玉野市築港）などの女子生徒でつくるチームが、手作りロケットの開発に挑戦している。小型でも火薬エンジンを備えた本格的なモデルの完成を目指

しており、10月20日には、茨城県つくば市で開かれる大人も含めた全国大会（日本モデルロケット協会主催）に出場する。

（岡本遥加）

ロケット作り挑戦

玉野高など女子中高生チーム

ロケット開発に取り組む中高生ら



玉野高は科学教育に力を入れており、同大会への出場を目指す女子中高生向けの応援プロジェクトに応募。10校の中から採択3校の一つに選ばれた。校内で参加者を募ると11人から3年間の6人が手を挙げ、同高が以前開いた公開講座に参加経験のある倉敷市の県立天城中と市立東陽中の生徒計3人も加わった。

チームの9人は5月からロケット作りに取り組んでおり、全国大会では最高到達高度や

パラシュートを仕込んで正確に「などとアドバイスを受けた。

今月9日には、応援プロジェクトを企画した教育支援企業リバネス（東京）の瀬野亜希さん（33）が玉野高を来訪。生徒たちは1人1個ずつロケットを試作し、「部品の位置が少しでもずれると打ち上がらないことがあるの

で正確に」などとアドバイスを受けた。

スチック製のロケットが出来上がると、グラウンドで打ち上げた。

玉野高2年井上凪沙さん（17）は「ロケットをもっと軽くして、高く飛ばせるようにした

と降下した。飛び上がりながら」と話している。

玉野高2年井上凪沙さん（17）は「ロケットを広げてゆっくりまで上昇し、パラシュートを広げてゆつくり押すと、時速約180キロで高さ80～100メートルまで上昇し、パラシュートを広げてゆつくり

玉野高2年井上凪沙さん（17）は「全国大会では上位を目指したい」と話している。

火薬エンジン備え本格的

試作したロケットの打ち上げ会＝9日、玉野高



（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。